



NPO法人成田緑の会(会長:藤崎 昇氏)が中心となって開催されたこの「集いは」750名ほどの参加者があり、大変盛況なものでした。最初に映画「蘇生」が上映され、観客は地球を蘇生の方向に導いてくれる不思議な微生物の力に見入っているようでした。

「善循環の輪千葉県集いIN成田」
四月一五日(土)
成田国際文化会館・大ホールで
盛況に開催されました。

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791



次にEM活用事例の報告が3例ありました。①館山の海を守り育む会「持続可能な課題への取り組み」では、千葉県館山市で長年に亘り毎週EM活性液を流し続け川や館山の海をきれいにしてきた一方で、住民の関心が薄れ、後継者不足にもなやんでおり、今後の対策の必要性が報告されました。②印旛EMの会「EMで元気になった吉高の大桜」では、EMで元気になった桜は、大雪の中で他の木々には雪が積もっているのに、吉高の桜だけは不思議と積もらないEMのパワーを示す映像に、会場がどよめいたようでした。③EM成田緑の会「EMはジャブジャブ使え-EM普及の取り組み」では、EM活性液を大量に作って安価に必要な人に提供し、各種行事に出店やEM教室の開

催などでEMの普及に努め、市内の17の小学校ではプール清掃にEM活性液の投入をするなどの報告がありました。今後は印旛沼の浄化に取り組むことを課題にしているそうです。

次に、比嘉教授による「EM技術の最新情報」と題した特別講演では、農業における塩の活用で収量の向上、EMの整流による鳥獣害対策など、最新のEM技術について講演され、参加者は熱心に聞き入っていました。



「第25回野田病院健康まつり」に今年も参加しました。4月29日(土)

地域に根差した医療を実践している野田病院の健康まつりに今年も会員大勢で出店しましたがお天気にも恵まれ大勢のお客で賑わいました。野外ステージでは、金本院長の講演や太鼓や踊りが繰り広げられました。院内では杉本先生の医学講演が行われ、また骨密度、動脈硬化、舌圧などの無料測定があり、参加した会員も測定に加わって、結果に一喜一憂していました。終了後は、恒例のようになった野田病院の菜園で大根や玉ねぎなど持ちきれないほどの野菜をいただいて、会員皆大喜びでした。関係写真次頁へ



団子作りの実演



EM製品の販売



金本院長のご挨拶



沢山の野菜をいただきました。



杉本先生のご講演



演舞の様子

塩の原子転換によるEM栽培について
比嘉教授のDND論文から
抜粋・要約した

微生物による原子転換は、1960年代には既に明らかとなつてはいるが、この説がエセ科学の代表的な事例となつていゝるの、再現性や、その応用が現実的でないためである。

これまで、放射能の消滅に対するEM技術では再現性と安全性は確認され、すでに実用技術になつてゐることを明らかにしてきた。

それでも承服できない、エセ科学者が無数にあり、多勢に無勢気味のため、放射能とは別に植物を中心に生物圏で起つてゐる原子転換の応用例を示す必要がある。すなわち、塩をEMの力で原子転換し、肥料として活用する方法である。

最近になつて、ロシアの科学者グループが、微生物を活用し、原子転換をする方法を確立し、特許になつたという情報が公開されたが、使われている微生物は、光合成細菌(硫黄細菌)である。すなわち、EMの中の主要菌と同じ性質があり、光合成機能や窒素固定を促進する多様な微生物が急速に増えるという特性がある。

原子転換の状況証拠は、実用レベルにあるが、更に、その成

果を明確にするには、塩の施用の限界を確かめる必要がある。当初は、1アール(100㎡)当り10kgを目安に、年4回40kgを超えないレベルでスタートしたが、EMを併用しない限り、このレベルでは確実に塩類障害が発生する量である。



右の写真は3年前から年間40kgの塩を施用しているが、この圃場は、12月から6月まで、レタス、その後はオクラのローテーションとなつてゐる。土壌は年々肥沃になり、膨軟になり、不耕起栽培が容易となり、雑草も皆無状態である。



前の写真は1アール当り1回で30kg以上の塩を散布し

たオオバコである。通常のオオバコは、5~10cm内外の葉の長さであるが、この場合は30~40cmとなり、まるで野菜である。このオオバコの薬効成分はかなり多く、次の写真の長命草も塩のみで育つたものである。アシタバを含め、多くの薬用植物が野菜なみに育ち、この技術は、薬草栽培に革命を起す力を持つてゐる。



このような事例は、塩が他の物質、すなわち、EMによって原子転換され、植物の栄養に変わらない限り説明のつかない現実である。論議する必要はなく、やつてみればすぐに解ることである。

塩は自然塩ならどんな塩でも良く、融雪用の塩なら、トン2~3万円で、コスト的には化学肥料の10分の1以下である。

編集後記

●編集子も塩を活用した野菜作りを実施しつつありますが、その効果を実感しつつあります。

皆さんもぜひ活用してみてください。EM技術は本当に日進月歩ですね。

KF